

1 自己評価

分析・改善策

- (1) 倉敷天城中学校と倉敷天城高等学校が有機的に協力し、充実した教育活動のできる学校運営を行う。
- ・中高合同で中学3年生の進路検討会を行い、生徒個別に理数科への適性等を検討し、保護者懇談でアドバイスをを行った。
 - ・6年間を見据えた教科指導の観点で中高教科会を行い、それぞれ教育課程の見直しの検討や、中高接続を意識した教科指導のあり方について協議を行った。
 - ・保護者懇談会、学活等で中高の進路指導課長、高校の教務課長・総務課長による説明に加え、高校の理数科長や理数科生徒による説明の機会を設定することで、高校の情報提供の内容を強化した。
 - ・高校進路指導課とも連携し、大学の内容について2年生の終わりから取り組ませたり、年間行事や、AMAKI学の3年間の流れを見直したりした。
 - ・中高合同で、学校祭、部活動の中高合同練習期間を設定するなどにより、帰属意識や自己肯定感などを醸成した。
- (2) 開かれた学校づくりを推進し、適切な情報発信を行うとともに、地域と連携することで教育活動を充実させる。
- ・生徒募集という観点で、オープンスクール、学校説明会や「学校案内」等の内容を大幅にリニューアルして、学校の教育内容をより詳しく広報できるようにした。学習塾等の訪問も、訪問校数を増やすなどしながら、中高で連携しながら行った。
 - ・学校行事、学年、部活動などを即時にブログにアップを行う等、ホームページを通じた情報発信の充実に努めた。
 - ・近隣地域の交通安全対策協議会に参加し、相互の協力を確認するとともに、地域住民に信頼されるよう努めた。
 - ・地域での環境美化活動に、教員・生徒共に参加し、地域への貢献活動に取り組んだ。
- (3) 本校生徒に求められる基礎学力とこれからの時代に求められる学力をあわせて身に付けさせ、各生徒にふさわしい進路実現の基礎を培う。
- ・次世代型教育推進センターの指導のもと「主体的、対話的で深い学び」の実践事例を提供し、研究授業やセミナーでの発表やセンターのHPを通して、情報発信も行っている。カリキュラム・マネジメントに関する研修も行い、重点的に育成したい資質・能力を中心に教育活動を進める土台ができた。
 - ・教科指導で、理科の発展学習、数学・英語の基礎学習など、始業前、放課後に学習会を毎週行った。
 - ・AMAKI学で、平和、人権、職場体験など幅広い人間形成に必要な学習を進めた。
- (4) 異年齢の集団、多様性のある集団を活かし、豊かで多様な体験等を通じて、思春期にふさわしい人間的成長を遂げさせる。
- ・ライフスキル教育については、高校3カ年の指導計画が完成し、中学校への導入も進んでいる。ピアサポートと併せて生きる力を育む教育の主軸として、次年度も一層進めていく。
 - ・教育相談では、ケース会議による情報共有、スクールカウンセラー相談などを行ってきた。相談希望件数も年々増加傾向にあり、多様な生徒・保護者の悩みに対応するため、SSWの協力を仰

ぐことも含め、可能な限りの手立てをとっている。

(5) 適切な教育環境の整備・管理に努めるとともに、心身ともに健康な生徒の育成のための環境づくり、指導に努める。

- ・中高合同交通安全教室、中高合同交通査察などを行った。今後も家庭の協力も得ながら指導していきたい。
- ・情報化時代に対応した携帯電話の使用方法に関しては、生徒を対象にした「ケータイ安全教室」を開催し、情報モラルの高揚に取り組んだ。家庭の協力を呼びかけ、保護者を含めた研修会も行った。
- ・教育相談、デイリーライフ、日常の学校生活を通して生徒の心身の状態を把握し、教員間での情報交換を密に行うことで、学年団としてまとまりのある指導・支援を行った。

2 学校関係者評価委員名

山部 正 (元校長) 上村 勝人 (学校歯科医)

山田 耕三 (ベネッセコーポレーション) 三村 由香里 (岡山大学大学院教育学研究科教授)

植野 奈美 (元PTA役員) 栗木原多恵子 (PTA役員)

3 学校関係者評価

- ・ カウンセリングは、カウンセラーに相談したい時に相談できる体制を作ってもらいたい。
- ・ 地域に貢献する生徒、郷土愛・よりよい人間関係を築くことができる生徒を育成して欲しい。
- ・ 進学先の事よりも経済的・生活的に一人でやっていけるかどうか、生きる力がついていけるかどうか、重要。また、子どもの自立については、家庭も重要な役割を果たすので、学校と家庭が連携をとっていくことも大切である。ライフスキル教育は生徒の自立に役立つと思う。
- ・ 学校保健員会の様子からも、生徒の自主性を感じる。この自主的な活動を積み重ねてもらいたい。
- ・ 授業を参観したが、生徒が意欲的に取り組んでおり、ホームルームもきれいで暖かみがあると感じた。英語の授業は、ALT との協同授業であったが、大変活気があった。
- ・ 倉敷天城中学校が育てている生徒のコミュニケーション力等が発揮できる場面を与え、それを地域、保護者に見てもらおうことで、理解が深まっていく。

4 来年度の重点取組 (学校評価を踏まえた今後の方向性)

- (1) 主体的・対話的で深い学びに向かう授業を定着させ、基礎・基本を確実に習得させるとともに、質の高い学力を身に付けさせる。
- (2) 高校での諸教育活動についての情報を共有するとともに、必要な役割分担を行い、教育活動の充実を図る。
- (3) 学校の諸教育活動を組織として継承するとともに、評価・点検を的確に行い、必要な見直しと充実を図る。
- (4) 特別活動、課外活動、校外の活動などに、主体的に取り組ませることを通して、適切な対人関係の能力やたくましさを育成する。
- (5) きめ細かいクラス運営や各種相談を通じて、的確に生徒理解を図るとともに、生徒の自己有用感を涵養する。